



§ 1 農薬再評価制度について

近年、新規農薬の発売や農薬の登録拡大件数が少なくなっています。登録の削除や発売中止品目がいくつか出てくるようになりました。2018 年 12 月 1 日施行の改正農薬取締法により、最新の科学的知見や評価法を反映できるように農薬登録制度が見直され、「再評価制度」が導入された事によります。この制度により、すべての登録農薬について、定期的に最新の科学的根拠に基づく安全性評価が実施され、古いデータや過去の基準で登録された農薬も、最新のリスク評価を通して、必要であれば使用制限や登録の取り消しが行われることになります。具体的な制度の進め方としては、既に登録取得された農薬については、2021 年から優先度に応じ、再評価が実施されています。また、改正後に登録された農薬については、15 年毎に再評価が実施される事となっています。

評価結果にもとづく措置として

- ① 継続：現状通り使用可
- ② 条件変更：使用方法や用途の見直し
- ③ 登録失効：リスクが高い場合は、販売・使用禁止となります。

農薬の登録申請の見直しには、以下の4点に特に焦点が当てられており、農薬成分の効果の評価だけでなく、新知見に基づく、環境や動植物に対する影響、使用者に対する安全性がより多く求められています。

再評価の優先度区分（例）

区分	対象	該当化合物数
A	多用されている有効成分	126化合物
B	許容摂取量が小さい成分	57化合物
C	その他・新しい成分	226化合物 (157+69)
D	生物農薬等	171化合物

1	農薬使用者に対する影響評価の充実 農薬使用者暴露試験を行い、1日あたりの体内農薬暴露量の毒性評価がなされ、使用量に加え、リスク評価に基づく防護装備がラベルに記載されます。
2	水域の生活環境動植物に対する影響評価の充実 今までの水産動植物の評価に加え、ユスリカや藻類・シアバクテリア等々生活環境動植物への試験成績が要求されます。
3	陸域の生活環境動植物および家畜（ミツバチ）に対する影響評価の充実 鳥類影響評価に加え、ミツバチおよび野生ハナバチへの影響評価が要求されます。
4	農薬原体の評価の導入 原体規格が設定されることにより、製造方法の変更が可能となります。

現在、日本の再評価制度は始まったばかりです。再評価導入以降、新規成分の登録や登録拡大が減少し、経済的理由による販売中止や作物登録削除の商品が増加しています。代替剤がある作物はともかく、登録農薬が少ないマイナー作物等においては、現場での対応に苦慮する場面も出てくるかと思います。また、登録維持のために値上げする商品も多々出てくると思われ、現場の負担も増えてきます。安全性の確保はもちろんですが、経済的にも生産者負担を考慮した政策を求めたいものです。

§ 2 Yamasho スタイル「スーパーリセット G」による 水稲刈後処理方法のご紹介

今年の稲作もそろそろ終盤を迎える時期となりました。猛暑と雨不足もあり、どの地域でも今年の作柄が心配されます。今月は、稲作刈り取り後の処理に使用する微生物資材についてご紹介します。

＜水稲の刈り取り後の一般的な処理方法＞

- ① 稲わらの処理：田にすき込むか、焼却・圃場外へ搬出します（最近はすき込みが主流）
- ② 根株の分解：地表近くの根や株の分解促進のために耕起します
- ③ 秋耕（しゅうこう）・碎土（さいど）：トラクターによる耕うんで、土壌を柔らかくし、分解しやすくします
- ④ 堆肥・有機物の施用：堆肥や米ぬかなどを混和し、地力向上を図ることを実施します

＜水稲収穫後処理が十分にされなかった場合に起きやすい課題＞

- ・ 稲わらや根の分解が進まず、翌年の初期生育に影響します
- ・ メタン発生などの温室効果ガスが発生する問題があります
- ・ 塊状土が発生し、翌年の作付に影響します
- ・ 地力が低下することで秋落ち（登熟後の葉色が早く抜けてしまうこと）が発生します

＜微生物資材の活用による水稲刈り取り後処理の可能性＞

バチルス菌を含む資材を刈り取り後に散布することで、以下のような利点があります

用途・課題	微生物資材の活用方法	期待される効果
稲わら・根の分解	秋耕前に散布し、すき込み	リグニンやセルロースの分解を促進し、翌春までに土に還元
土壌のガス障害	微生物の代謝によりガスを抑制	硫化水素やアンモニアの発生を抑制し、根張りを良好に
地力回復	有機物（米ぬか、堆肥など）と併用	腐植の生成促進、団粒構造の形成による保肥力・通気性アップ

弊社オリジナル商品 Yamasho スタイルの「スーパーリセット G」は、稲刈り後に田んぼにすき込まれる稲わらや根株の分解を強力にサポートする微生物資材です。バチルス菌の働きで、土壌中の有機物を効率よく分解し、ガス障害の抑制や翌年の根張り向上、地力改善につながります。

秋耕前に散布するだけの簡単施工により、水稲栽培における収穫後の土づくりを効率化しますので、一度お試しください。

資材名：「スーパーリセット G」

- ・ 使用時期：水稲刈取り後、秋耕前（9 月下旬～10 月中旬）
- ・ 使用方法：10a あたり 3 袋を全面散布 → 翌日までに耕起
- ・ 併用推奨：米ぬか（100kg/10a）、堆肥（1～2t/10a）との併用で微生物活性をさらに促進

